

支え合うまち小松島

社協だより

小松島地区社会福祉協議会
仙台市青葉区小松島4-7-1
(小松島コミュニティセンター)
TEL: 022-274-6181

令和5年度運営について

会長 菅原 勲

急速な少子高齢化、世帯の小規模化に伴い、住民の福祉ニーズも多様化、複雑化して、これまでに増して地域で支え合う環境づくりが求められています。

しかし、地域での助け合い機能低下や人間関係の希薄化により支援を要する方々の環境は大変厳しくなっています。

このためには、地域の実態を把握し、個人の人格や意思を尊重した支援や見守り活動を行うことが大切になっています。そこで、小松島地区社会福祉協議会としては、以上の情勢を念頭に令和5年・6年度事業計画として各関係団体や地域包括支援センターとの連携をより密接にして、地域住民による共助の精神に基づく「支え合い」による、安心して住みよい町作りに努めます。

- ① 小地域福祉ネット活動を推進し、各福祉区毎に、町内会、民生委員福祉委員会などによる地域ぐるみでの支援協力を得ながら「安否確認活動」や「日常支援活動」に取り組む。
- ② ふれあいサロン活動の充実強化、活発化を図り、交流促進・情報交換・安否確認・生きがい対策の場とする。
- ③ 福祉を支える福祉委員の加入促進を図る。
「福祉委員の加入推進と福祉懇話会の定着」
- ④ 災害時の支援体制については、学区町内会連合会等他団体と連絡を密にしてすみやかに支援体制を確立する。
- ⑤ 「社協だより」の発行、福祉情報を提供し情報共有に努める。
- ⑥ 青少年の健全育成を図り、併せて児童館を中心に子育て支援活動を強化する。
「子育て支援活動 年10回開催」
- ⑦ 福祉資金の貸し付けを行う。



折り紙教室の開催

令和5年4月5日(水)小松島地区社会福祉協議会主催の「折り紙教室」が小松島コミュニティセンターで開催されました。



講師は長南賢司氏で参加者は包括支援センターと仙台市社会福祉協議会の方々を含め多くの

方々の参加がありました。

折り紙は指先を使うことで脳を刺激し感受性を豊かにされると言われています。折り紙は難しい作品ですが写真の通り皆さん立派に完成しておりました。



令和4年度

地区社協活動・決算の概要報告

地域福祉の推進活動 (340,149円)

- 小地域福祉ネットワーク活動
ニーズ調査・安否確認・日常生活支援
高齢者サロン・子育てサロン助成
- 民生児童委員協議会活動・福祉委員活動
- 理事会(総会)・常任理事会の開催

地域福祉情報の提供 (0円)

- 「社協だより」
地区内全戸、地区内半数事業所配布
- 「社協通信」発行
地区社協の動きのお知らせ
- 編集会議・その他

研修会の開催・参加 (20,000円)

研修調査・セミナー資料

- ニーズ調査、研究調査、資料作成
理事研修会
仙台市社会福祉大会・福祉セミナー
福祉懇話会・ネットワーク活動研修会
地域包括支援センターとネットワークづくり
(台原・花京院・小松島と連携)

その他の活動 (14,862円)

- 月例役員連絡会の実施
(活動の点検・情報交換ほか)
- 福社区代表者・班長連絡会(情報交換)
- 市社協・区社協との連携
(会長会・活動推進委員会ほか)
- 福祉資金の貸付事業
- 事業連絡諸費・渉外費
(事務用品・消耗品・通信連絡・印刷・コピー・
センター負担金・払い込み手数料)

令和4年度支出総額 375,011円

第40回小松島福祉コミュニティ

7月23日(日)に開催された、第40回小松島福祉コミュニティまつりの準備は、前日22日に行われました。

テントの設営

体育振興会・消防分団・各町内会推薦の設営担当実行委員のみなさま

会場の準備

各担当部署のみなさま

- イス、机、パネル設置(受付、展示、演芸部門)
- 放送設備の準備、バザー品の準備
招待者、実行委員への配布品及び接待用準備

ありがとうございました

当日23日は晴天の下、開会式が10時から藤原町内会長司会で進められました。開会のあいさつは斎藤実行委員長の「4年ぶりの開催で熱中症に注意して楽しくやりましょう…」ではじめられました。



コミセン クラブ紹介

ウクレレクラブのご案内

鎌田 聡一郎

クラブの名称は「HAMO・HAMO」と言います。皆で楽しく歌おうをモットウにコミセンにて、雑談あり、モグモグタイムありで楽しみながら練習しています。

また、ボランティア活動として「シオンの園」「仙檀の里」や遠くは山元町の介護施設でも演奏活動をしていましたが、今般のコロナ禍で2年間休止しております。ただ福沢市民センターでは小松島児童館と合同で3年間連続で演奏させて頂きました。

演奏会はハワイアンソングから歌謡曲、カントリー、子供のアニメソング等々、いろんなジャンルを約50曲以上練習していますが、決して上手ではありません。楽しく演奏して、楽しく歌えれば良いと思っています。

興味のある方は、是非、一度練習している所を見学にお出で下さい。時間は毎週木曜日午前中です。

お待ちしております。



ニティまつり開催される

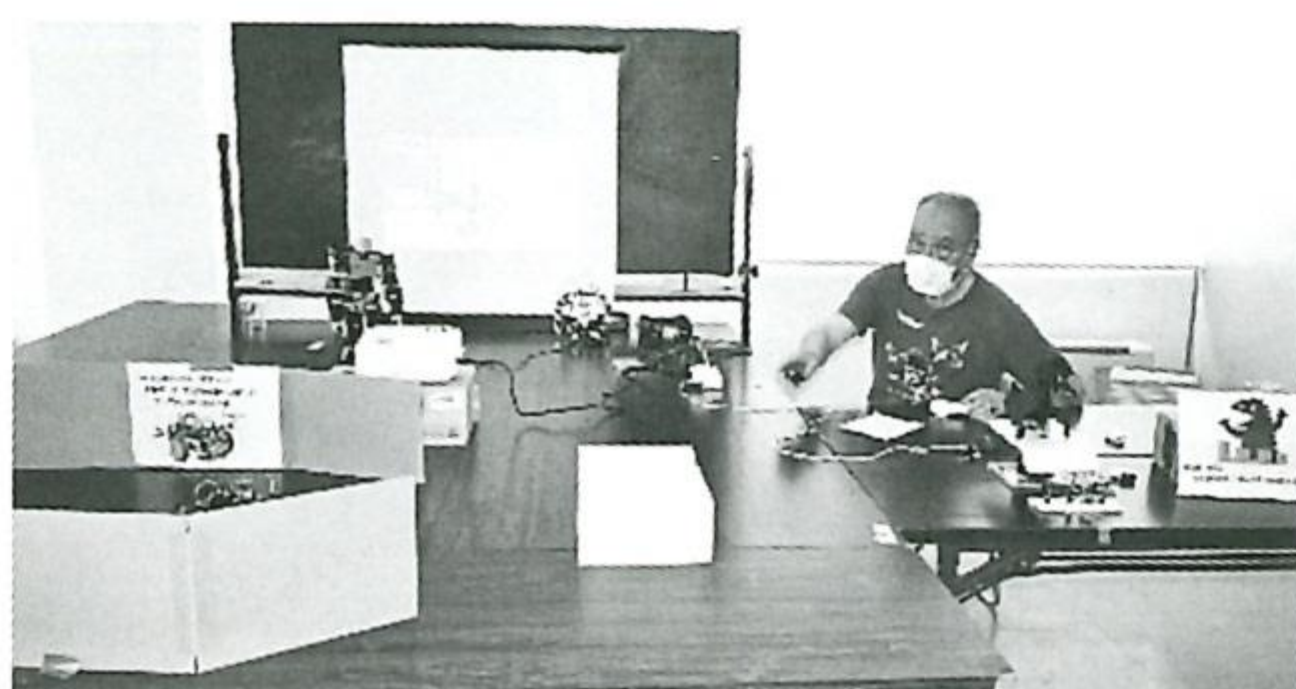
野外では、子供コーナー、やきとり・たこ焼き・フランクフルト・ジュース販売、バザーコーナー、野菜販売等でたくさんの子供たちが参加し賑やかに楽しく開催されました。

屋内では、1階で各包括支援センター、高松薬局による健康相談が行われ、骨密度、体成分分析、握力測定等たくさんの方々が参加されました。

2階では演奏コーナー、①ハワイン演奏、②ハンドベル演奏、③馬頭琴演奏が行われ、たくさんの方が美しい音の調べに酔いしれていました。

「AIロボット」の展示・実演では音楽に合わせてロボットが力強く踊っていました。伊藤秀嗣さんが制作。隣では ボッチャの競技が楽しく行われていました。

13時30分までみなさま、楽しく活発にいい汗を流して有意義なまつりを経験されたと感じました。関係者のみなさま本当にありがとうございました。感謝申し上げます。



広報委員会委員 民生委員・児童委員 荒井 早苗

町内逍遥



『小松島地区平成風土記』(小松島地区平成風土記作成委員会—平成20年3月発行)を折に触れて読んでいます。そのたびごとに、実に丁寧に調べられており、そして読みやすく簡潔にまとめられている作成に携わられた方々への尊敬の念と、町内に住みながら町内のヒト・モノ・コトに無知だらけを痛感しながら、その記述関連を自分なりにたどってみることが最近の楽しみとなっています。

そのひとつが「露無の里」(市営バス小松島三丁目バス停傍)です。標柱には、(ある一行がこの場所の松の根本で一夜を明かさざるを得なかったが、ここだけが朝露に濡れなかった)ことに由来するとあります。(勝手ながらいつまんでまとめました。)一行の女性が詠んだ「風も吹き 雨の降るをもいとはねど 今宵ばかりは露無しの里 小萩」も記されています。

この物語には、前九年・後三年の役をはじめ源頼朝の平泉の藤原征討など、東北の古代・中世の歴史が背景にあります。これらの時代について史実を整理してみたいと思っていた折、前記の和歌を知り、とりわけ「小萩」に関心をそそられました。というのも、「小萩」は歴史書や和歌などでたびたび目にする名詞だからです。調べていくに、『郷土研究としての小萩ものがたり』(著者 藤原相之助 昭和8年)が市立図書館にあることが分かりました。乱暴なまとめになりますが、「小萩物語」は一見その地方の昔話(伝説)のように思えるが、実は中央から伝搬してきて各地に物語だということです。だから「小萩」にまつわる複数の関連した話や和歌に出会うことに合点がいきました。加えてこの書では、宮町にある仙岳院の小萩観音や長命荘の天神社の変遷などについても詳細に著されています。読み進んでいくうちに興味がさらに募りました。特に長命層荘の天神社(天満宮)についてもっと知りたいと思い、町内の詳しい方に伺ったり、本(『奥州・仙台の謎解きシリーズ四 姉妹の天満宮』(平成30年12月4日)を紹介いただいたりしました。その過程で驚きの事実?を知ることができました。

この書の佐々木伸氏は、現在の奥州市水沢の出身です。全国各地の天満宮についての事実や謎を解明したいという動機でこの書を著したそうですが、太宰府天満宮の菅原道真公と東北(小松島町内会も含めて)とのつながりを興味深く書いておられます。初めて知ったことですが、道真公の妻子が奥州市水沢の母体(もたい)・姉体(あねたい)地区に住んでいたのだそうです。奇しくも佐々木氏はその姉体小学校で学んだそうです。そして卒業生に及川四郎(宮澤賢治の『注文の多い料理店』を出版した人物)と、現在アメリカの大リーグで二刀流として活躍している大谷翔平選手がいることです。

「小萩物語」の話題からそれてしまい散漫になってしまいましたが、町内の逍遥からヒト・コト・モノが巡り巡ってつながっていることに新鮮な喜びを感じるこの頃です。

編集後記

新型コロナウイルス5類になりやっと社会活動が以前に戻りつつあります。小松島社協もやっと活動開始され社協だよりも2年ぶりに発行できるようになりました。編集委員は、私 高橋和彦、野崎政勝さん、大久保佳奈子さん、荒井早苗さんのメンバーでやることになりました。よろしくお願いします。今後もコロナ感染症、ワクチン接種やマスク、手洗い等出来る予防措置で防衛しましょう。

原稿提供していただいたみなさま大変ありがとうございました。(高)